



「ボランチわ」は日産スタジアムボランティア情報誌です

横浜F・マリノス、J1リーグ優勝のかかったホーム最終戦で勝利！



ホーム最終戦で勝利して喜びに沸く横浜F・マリノスサポーターズ

2022年10月29日(土)、J1リーグのホーム最終戦として横浜F・マリノスvs浦和レッズが行われました(観客数46,387人<シーズン最多>)。コロナ感染拡大前の2019年に比べて当季は観客数が少ない目の試合もありました。また観客は声出し応援が制限される状況が続いていましたが、サポーターズシート(ホーム側とビジター側の一部)では徐々に声出し応援が可能となり、日産スタジアムに活気が戻りつつあります。

横浜F・マリノスは浦和レッズを4対1で破りましたが、2位の川崎フロンターレが勝ったためにJ1リーグ優勝はお預けとなりました。2022年の横浜F・マリノス戦を振り返ると、コロナ感染対策に十分配慮した上でボランティア活動を行いました。募集人数を60名として活動内容は東西南北ゲート(試合によって活動エリアの変更あり)において入場される観客の検温を行いました。観客数が多い時や天候など検温の条件が異なるとボランティアの対応を変える必要があり、大変気を遣いました。ボランティアリーダーやメンバーが意見を出し合い、検温作業の改善を繰り返しながら1年間の活動を終わることができたところは評価できると思います。(久保勝美)

ボランティアの笑顔で、スマイルスタジアム

横浜 F・マリノス 3年振り5度目のJ1リーグ優勝！

2022年シーズンホーム最終戦で勝利したもののJ1リーグの優勝がお預けとなった横浜F・マリノスは、11月5日(土)にアウェイでヴィッセル神戸に勝利し、2019年以來の3年振り、通算5度目のJ1リーグ優勝を決めました。横浜F・マリノスにとって2022年シーズンはクラブ創設30周年に当たり、この記念すべき年に優勝を飾ることができました。攻撃的な“アタッキングフットボール”を貫いた見事な結果でした。ヴィッセル神戸戦はノエビアスタジアム神戸で行われたため、現地で優勝の瞬間を見るのが難しく、日産スタジアムの大型ビジョンを使ってパブリックビューイングを開催しました。

12月には日産スタジアムに隣接する「トリコロールワンスタジアムショップ」に優勝シャーレとトロフィーが公開され、多くの横浜F・マリノスサポーターズが訪れて写真撮影を行っていました。

ボランティアは横浜 F・マリノスのホームゲームを支えてきました。優勝を祝福したいと思います。(久保勝美)



優勝シャーレ(左)とトロフィー

新横浜公園 凧揚げの日

1月7日(土)、寒中の恒例行事として、「新横浜公園 凧揚げの日」が行われました。気温は低めでしたが天気は快晴となり多くの親子が新横浜公園に集まりました。昨年から環境に配慮した「凧揚げの日」を目標に掲げ、凧の本体に和紙、骨に竹ひご、足には新聞紙を使って、自然にやさしい材料として用意を進めました。今年もコロナ禍での開催となり、凧作りのテーブルが密とならない様に1回の凧作りの人数を制限しました。10時~13時30分までの全8回で受付を行い、1回当たり8組の申し込みとしました。参加した親子の皆さんはそれぞれ上手に凧に絵を描いていました。この日は風が弱く、空高く揚がる凧は少な目でしたが、子ども達は新横浜公園の芝生の上を精一杯走って、凧が揚がるのを見て喜んでいました。凧揚げの後には、「お正月遊び」として用意した、けん玉、コマ回し、羽根つきや竹ぽっくりなどを楽しんでいました。コロナ禍で出かける機会が少ない中、「新横浜公園 凧揚げの日」は親子の触れ合いの機会となりました。事前に凧作りの部品の準備や袋詰めを担当したボランティアの方々、開催当日に担当したスタジアムスタッフやボランティアの方々、お疲れ様でした。(久保勝美)



凧に上手に絵を描きました



「凧が高く揚がれ」と精一杯走りました



竹ぽっくりは楽しい

2022年「ボランティア全体研修会」開催

2022年12月3日(土)、301号室でボランティア全体研修会が開催されました。コロナ禍での三密を避けるために午前の部と午後の部に分けて行いました(出席者 午前の部:50名、午後の部:31名、合計81名)。

1. 日産スタジアム管理課 秋本課長ご挨拶

全体研修会に参加して頂きましてありがとうございます。久しぶりに全体研修会を開催することができました。日産スタジアムでは2002FIFAワールドカップ、ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピックといった3大会の決勝戦を行いました。今日はボランティアの皆さんに普段は入れない見学コースを案内する予定です。今シーズンは横浜F・マリノスがJ1リーグ優勝を果たす事ができました。ボランティアの方々のご協力、ありがとうございました。FIFAワールドカップカタール大会での日本代表の活躍を見ているとすばらしい試合が続いて興奮します。今後も日産スタジアムの大会を盛り上げるためにご協力の程、宜しくお願いします。

2. 日産スタジアム上級専門職 柴田智之様 講和

内容:『横浜国際総合競技場グリーンキーパーが目指す世界に誇れる芝生』

横浜国際総合競技場は1997年10月1日に竣工しました。私はゴルフ場で芝生の管理をしていましたが、縁があって1997年6月1日から横浜国際総合競技場に席を置くことになりました。それ以来、芝生の管理に命を懸けていると言っても過言ではありません。

着任した2週間後に最初の芝生を敷きました。人工地盤という特殊な構造をした床で全周に屋根の掛かった芝生の育成には適していない環境のスタジアムの芝生管理がスタートした瞬間です。

ヨーロッパなど緯度が高く、冬場に床土が凍ってしまうスタジアムでは、芝生の下に温水パイプを埋設して温水を流し、暖めて凍結を防止する方法を採用しています。横浜国際総合競技場でも日本国内で初めて、このシステム(ヒーティングシステム)を導入して特殊な環境への対策をしました。その年の10月にヒーティングシステムの勉強のためにイギリスとドイツのスタジアムを視察に行かせて頂きました。

それから25年が経ち、今年26年目に入りました。私がスタジアム全職員の中で最古参となっています。

芝生の管理には水と光と温度が必要不可欠です。特殊な環境のスタジアムでは12月初めになると、南側1ゲート前付近の芝生は24時間全く陽が当たらなくなります。この状態は1月下旬まで約2ヶ月間続きます。スタジアムはコンクリートの人工地盤構造で造られているため、熱しやすく冷めやすいという特徴があります。厳冬期は0℃以下となり芝生の下も凍りつきます。特に陽の当たらない1ゲート近くは常に凍ったままとなります。

1998年3月に柿落としで開催されたダイナスティーカップでは、季節はずれの大雪が関東で降り、千葉では電車も止まりました。スタジアムの外は雪で真っ白でしたが、スタジアムの中は芝生のグリーンが目を引きました。なぜ芝生の上に降雪が無かったかという、ヒーティング(温水パイプ)を使ったからです。気温が低く、太陽光が当たらない状況でヒーティングを行ってしのぎましたが、やがてその代償を払うこととなりました。大会後、ヒーティングの稼働を停止しました。すると、芝生はそれまでの気温より下がってしまったことで冬に戻ったと思って生育を止めてしまいました。

6月になると、冬型の芝生(ライグラス)が暑さで衰退して無くなりました。本来ならば代わって出てくるはずの夏型の芝生(ティフトン)が出てきませんでした。3月にヒーティングを稼働させていた時に、春が来たと思って体力を使って生育をはじめ、その後ヒーティングを停止したことで活動を止めてしまったので、体力だけを消費した結果、ライグラスがなくなっても出てくることはなく、全面の芝生が無くなってしまったのです。その後は連日のように補修や張替えに追われ、毎日夜中の2時~3時に帰る日々でした。1998年12月に行われた天皇杯で来場したヴェルディの選手は表面がカッチンカッチンでスパイクが効かないと言っていました。それから20年あまりの時間の中で徐々に芝生の状態は改善されていきました。

2019年にラグビーワールドカップがありました。ラグビーの試合ではスクラムやモールで芝生が横方向の力を受けることが多くあります。ティフトン芝はこの横の力に対して決して強くありません。開催された9月はライグラ



柴田智之様による講

スも強度がでるほどしっかりと生育できている時期でないため、この補強をするため、2018年に横浜市は全面改修を行って、ハイブリッド芝の導入を決めました(注1)。ハイブリッド芝は天然芝の中に人工芝を混ぜることで人工芝と天然芝の根が絡み合って強さを保つように考えられた手法です。ラグビーワールドカップでは絶対に成功が求められていましたので、賢明な判断だったのだと思います。

しかしこのハイブリッド芝にはデメリットもありました。FIFAはある一定の条件をクリアした人工芝の導入を認めていますが、サッカー選手は足腰に負担を掛けたくない所以人工芝を嫌います。横浜で採用したシートタイプの人工芝は、シートによって強度が保たれる半面、シートがより硬さを増させることにもなりました。

更にシートが入っていることでそこに断層が出来てしまい、通常であれば上から下に流れる水が、その断層に沿って横に流れてしまうことになりました。ハイブリッド芝の場合、4cm下にシートが入っているため、根も水分のない4cmより下に行かない状態となってしまいました。良い状態の芝生であれば根は15cmから20cmあるのに対してハイブリッド芝では5cmにも満たない状態となってしまい芝生が育ちませんでした。

芝生が育たなかったことで2018年に張った芝生は1年で駄目になってしまい、ラグビーワールドカップ直前の2019年6月に再度ハイブリッド芝で張替えを行い、ラグビーワールドカップ自体は成功裏に終了することが出来ました。

マリノスをはじめとするサッカー関係者からは、芝生が育たない上に表面硬度が高くなるハイブリッド芝に対する不満の声が非常に多く聞かれました。芝生をうまく育てることが出来ない上、利用者からの声も加えて翌年に控えていた東京オリンピック2020のサッカー会場としてどのような方向性で進んでいくべきか、横浜市と長期間にわたり熟慮した上で2021年1月にハイブリッド芝を止める選択をしました。

東京オリンピック2020は絶対に成功させなければならない。2021年6月にハイブリッド芝からそれまで使用してきたティフトン芝に張り替えて1ヵ月半後の7月22日にオリンピックのサッカーを迎えることとなりました。その後17日間で決勝戦を含む12試合の男女サッカー競技が日産スタジアムで行われました。

オリンピックで思い出されるのは女子サッカー決勝戦の場所が国立競技場から日産スタジアムに突然変わったことです。我々は7月末段階でFIFAの芝生担当者から女子サッカー決勝戦の会場を日産スタジアムに変更しようと考えていると打診がありました。女子サッカー決勝戦のキックオフが午前11時の予定でしたが、2021年は酷暑で昼間に決勝戦を行う事は選手の体調面において非常に困難な状況でした。

東京都との交渉が長引き、決勝戦前日の19時に日産スタジアムで行われることが正式に決定しました。女子サッカー決勝戦は同点で延長戦を行っても決着がつかず、PK戦までもつれた試合でした。23時を過ぎた頃ようやく決着し、その後表彰式も芝生の上で行いました。時間は既に0時を過ぎていましたが、優勝したカナダの選手が金メダルを手にして歓喜で芝生の上から出ようとしませんでした。選手たちを芝生から出すため、我々で芝生の刈込みを始めてようやく選手達も引き揚げましたが、作業が終了したのは午前3時頃でした。

予定では東京オリンピック2020で男女サッカー11試合でしたが、最終的に女子サッカー決勝戦が加わったことで12試合が日産スタジアムで行われました。この実績には胸を張って良いと思います。

今大会で日産スタジアムの運営に関わったボランティアの皆さんも胸を張っていいと思います。横浜市もこの成果に納得してくれました。

日本には四季があり、梅雨もあります。この梅雨時期には芝生が菌に犯されて病気になるようになります。その予防策として、ほとんどのスタジアムで芝生の床の構造を砂にして排水を良くしています。これにより排水性が良くなって病気にかかりにくくなりますが、保肥力や保水力が弱くなります。

特に日産スタジアムは排水性に優れている分、通常であれば効果が1ヶ月程度ある固体(粒)肥料が2~3週間でなくなってしまうため、点滴のように葉っぱから直接吸収できる液体肥料を週1回のペースで散布するなどの手間がかかっています。

この手間を軽減するため、15年ほど前から有機農法を取り入れて土壌の有機化を進めてきました。ようやくその効果が感じられるようになった頃にハイブリッド芝に張り替えることになり、その際に作り上げた育成層を全部すき取られてしまいました。横浜国際総合競技場を建設した25年前に戻ったことになります。また長い年月を掛けて改善しなければなりません。

Jリーグの試合前に水を撒いているのを見たことがあると思います。これはチームから「ボールを滑らせたいから水をまいてくれ」と言われてやっています。我々はサッカーで求められるボールの転がりやスピードを考慮して、芝生の長さ、芽数、葉幅、硬さを考えた芝生を造っているつもりです。本来は水を撒かなくてもよい環境のはずなのですが、中々理解されていないのが現実です。

日本のスタジアムの芝生管理水準は世界で5本(個人的には3本)の指に入っていると自負しています。

ボランティア全体研修会で貴重なお話をしていただいたグリーンキーパーの柴田智之様に心からお礼を申し上げます。(研修部会 赤平紀明)

(注1):ハイブリッド芝について『ボランティア第33号(2018年8月)』の1ページに記事を掲載しています

3. スタジアムツアー

通常のボランティア活動では入れない場所を巡るスタジアムツアーが実現しました。西ゲート2Fの正面玄関から入場して、『Final Stadium×3』の展示エリアを見学しました。テレビ中継でよく使われる西6F解説室(全面ガラス室)・放送ブースや西5F貴賓室・西4Fゲストルーム(貴賓者ラウンジ)を見学する貴重な体験をしました。メインスタンドのVIP席で出席者の写真撮影を行いました。長年ボランティアをやっている人でも初めて入る場所がたくさんありました。スタジアムスタッフのご配慮やご協力に感謝しています。(久保勝美)



午前の部に参加したボランティアの皆さん



午後の部に参加したボランティアの皆さん

ファイナルスタジアム スポーツボランティア アカデミー入門編開講



3月25日(土)、317号会議室でスポーツボランティアに興味がある方で、特に初心者を対象としたボランティアを育成する「ファイナルスタジアム スポーツボランティア アカデミー入門編」が開講されました。前半は、「はじめてのスポーツボランティア、入門編」と「横浜市スポーツ推進計画とスポーツボランティアの取り組み」の講習を行いました。後半は、スタジアム内のファイナルスタジアムに関連する展示品を見学しました。最後に出席者に受講終了証が渡されました。出席者の中には日産スタジアム運営ボランティアに申込をされた方もいました。今後、日産スタジアム運営ボランティアの一員として活躍されることを期待しています。(久保勝美)



アカデミー入門編講習の様子



最後に受講終了証授与式を実施

日産スタジアム・サイクルパークフェスティバル 2022大会

～ 日産スタジアムと新横浜公園を使った年1度の自転車レースが盛大に行われました ～

コロナ感染拡大の影響で開催が見送られていたサイクルパークフェスティバルが3年ぶりに開催されました。従来は秋に開催されていた大会ですが、今回は2022年7月2日(土)の日程となり最高気温32度と真夏日の中で行われました。普段は自転車で走ることのできない日産スタジアム内のトラックと新横浜公園内のコース(1周3.2キロ)を使い、自慢の自転車に乗って健脚を競い合いました。レース種目は「チャレンジ」と「エンジョイ」の2種目が設定されました。「チャレンジ」では1人またはチームで交代しながらレースを進め、180分間にコースを何周したかを競うレースです(90分間のレースもあります)。一方、「エンジョイ」ではレース初参加者が安心して走行できる様に配慮されており、ママチャリや子ども用自転車でレースを楽しむことができます。

ボランティアはフラッグマーシャルとして20ポストで活動を行いました。サイクルパークフェスティバルのライダーの安全を守り、レースをより楽しむためにフラッグマーシャルは事故やトラブルが起きた時に黄旗・赤旗・白旗を振ってライダーに注意喚起を行います。また無線を使って現場の状況を大会本部に報告します。フラッグマーシャルの活動を的確に行うために、参加するボランティアは6月4日に開催された講習会で座学や実地訓練を受けました。ボランティアがサイクルパークフェスティバルで活動する際は講習会に必ず出席して下さい。

日産スタジアム内にスタートとゴールが設定されたトラックを走り、マラソングートから外周コースに出ます。新横浜公園の直線コースでは加速してスピードを競い合います。コース後半には中央広場から急坂(大会内名称:ピレネーピーク)を登り、日産スタジアム内に戻ります。このピレネーピーク付近ではライダーの転倒や

自転車のマシントラブルが起きやすく、フラッグマージャーは気を抜く時が無く、フラッグと無線を使って安全な走行のために活躍しました。

1年に1度の日産スタジアムで行われるサイクルパークフェスティバルで、多くのライダーが楽しんでいました。ボランティアの中には初めてサイクルパークフェスティバルの活動に参加して、目の前で行われた自転車競技のスピードの速さや迫りに驚き、貴重な経験となりました。

(久保勝美)



新横浜公園を疾走するライダーたち

2022インラインチャレンジ in 横浜

～ インラインスケートが大好きな多くの人たちが集まりました ～

11月19日(土)、20日(日)に2022インランチャレンジ in横浜の大会が開催されました。昨年の大会より競技数が増えて日産フィールド小机の周辺だけでなく、日産スタジアム場外の南エリアの4Fから2Fにつながるスロープでのインラインアルペンスラロームが行われました。ボランティアは競技エリアを横断する歩行者の誘導や、歩行者が競技エリアに入らないように注意喚起を行いました。インラインスケートをはいた子どもから大人の競技者が競技を楽しみました。またインラインスケートをはいてダンスパフォーマンスを披露する姿を見て多くの観客が声援を送っていました。(久保勝美)



インラインアルペンSL競技の選手



スタートラインのインラインスケートの選手たち

2022年度グリーン&クリーン部会の活動について

今年度も新横浜公園のスタッフの皆様と調整を図り、コロナ感染拡大対策を最優先に活動を行ってきました。

I. 日産スタジアムや新横浜公園における環境美化活動として4つの活動

- ① 「ランナー・散策の人たちの憩いの花壇」における活動
通年、四季折々の花木、草花の維持管理を行いました。4～5月は港北オープンガーデンに合わせ花壇整備を、7月にはフジバカマの花苗を植えてアサギマダラという蝶々を呼ぶ作業を行いました。
- ② 港北オープンガーデン(4, 5月)に参加し、隣の「バタフライガーデン」「モーガーデン」と一体になった新横浜公園の名所になりました。開催期間に是非、足を運んでみてください。
- ③ 「中央広場」の環境美化としてスタジアムが実施している企画に、グリーン&クリーン部会は、毎週月曜日を活動日として一年間活動してきました。年初めには冬の花がきれいに咲いていました。

- ④ 「ナチュラルガーデン」整備は、スタジアムが6月からスタートしたプロジェクトです。月1、2回の活動で花苗、球根植付け、草花の選定作業をお手伝いしています。



フジバカマの花苗



花苗の植え付け後



オープンガーデンののほり



花植え活動



花植え後

Ⅱ. 「親子で楽しく米作り、植えて覚えよう花の名前」として3つの活動

- ① 田植え、花植え体験(5月29日)
田起こし、代掻きを済ませた田圃で、12家族(大人:17名、子供:21名)の親子が田植えを楽しみました。花壇ではたねダンゴを作りひまわり、ワタのタネを丸めて植付けをしました。
部会員12名がボランティア活動で参加しました。
- ② 案山子作り(8月中旬)
昨年度使用したパーツを組み合わせ、部会員で案山子を組立て、8月26日に田圃柵に飾りつけました。散策の人やジョギングの人たちから毎年楽しみにしているとの声が！
- ③ 稲刈り、花植え体験(10月2日)
天候不順が続きましたが、当日は晴天に恵まれ、13家族(大人:18名、子供21名)の親子が稲刈りを体験し、稲を束ねてフェンスにかける作業も体験しました。花壇では水仙、チューリップの球根植付けを体験しました。部会員14名がボランティア活動で参加しました。
稲刈り2週間後に部会員で脱穀作業、糶摺り作業を実施し今年約30キロの収穫でした。

12月には、部会員の希望者でしめ縄作りを行い、併せて、しめ縄作りの作業を学びました。2023年度は、10年続けている「親子で楽しく米づくり、植えて覚えよう花の名前」を継続し、市民の皆様との触れ合いの場を持っていききたいと思います。

更に、「2027年国際園芸博覧会」に向けて、スタジアムが進めていく新横浜公園の「ナチュラルガーデンプロジェクト」活動に、グリーン&クリーン部会は協働していきたいと思っています。(担当 中尾吉宏)



田植えを楽しむ子供たち



田植えに参加した家族の皆さん



田んぼの横に並んだ案山子



稲刈り

令和4年度 運営ボランティア事務局会議議事録

令和5年1月15日

(出席者) 上田、大家、久保正、中尾、羽賀、久保勝、赤平、青山、神村、秋本課長、横田、坂本

1 各部会からの報告

1) リーダー部会(上田)

コロナ感染対策として観客の検温を主な活動として実施した。リーダー部会で情報を共有してスムーズな活動ができた。

2) イベント部会(久保正)

2020年以降、コロナ感染拡大によってイベントの開催を見合わせている。今後、コロナ感染の状況を見ながら、感染対策を行ってイベントを計画する。

3) 研修部会(赤平)

12月に全体研修会を開催した。グリーンキーパーの柴田様に講和をお願いした。またスタジアム場内を見学した。多くの参加者から良い研修会だったと前向きな感想があった。

4) 情報部会(久保勝)

ボランチわ第39号の編集を継続中。

5) 環境・美化部会(中尾)

市民活動支援事業の助成金についてスタジアムと相談を行っている。今後、助成金がなくなることが考えられるので、活動資金の調達が課題である。中央広場の花壇の整備は維持していく予定である。

2 今後の活動予定について

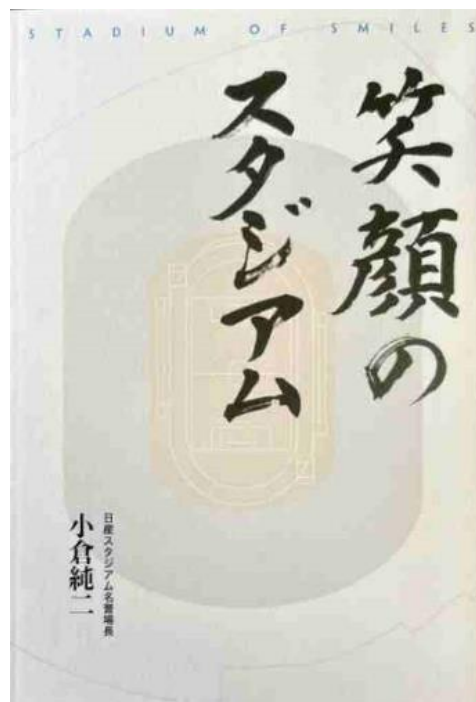
- ① 横浜F・マリノスの活動はJ1リーグの日程が今後発表されるので、順次募集する
- ② 4月15日 横浜キヤノンイーグルス(ラグビー)
- ③ コンサート開催予定(6月、7月、9月) ボランティアの活動は無い
- ④ サイクルパークフェスティバル(11月)
- ⑤ その他の活動について決まった時に連絡する

日産スタジアム名誉場長 小倉純二様の著書『笑顔のスタジアム』

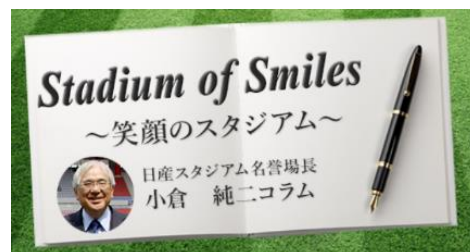
2015年、小倉純二様が横浜国際総合競技場(日産スタジアム)の名誉場長に就任されました。それから間もなくして横浜国際総合競技場(日産スタジアム)ホームページの名誉場長のコラムが始まりました。名誉場長のコラムとして、スタジアムでの大会・イベント・コンサート・施設や芝生に関連する内容に限らず2002FIFAワールドカップ・ラグビーワールドカップ2019・東京オリンピック2020・J1リーグ・横浜F・マリノスといった幅広い内容となっています。中には2018FIFAワールドカップでの日本チームの活躍・世界のラグビー強豪国の対戦・アジアや世界のサッカーやフットサルの状況・リオデジャネイロ五輪での日本選手の活躍、コロナ感染対策など多岐に渡っています。

日産スタジアム運営ボランティア20周年に際し、「20周年のお祝いする会」について写真を載せて詳細に書いていただきました。温かいお言葉が書かれており、常にボランティアに寄り添っていただいていることを感じることができました。また別のコラムでは「日産スタジアム運営ボランティアの安田十四雄さんが登場しました」の中で、ラグビーワールドカップ2019のボランティアユニフォームのお披露目会で安田十四雄さんが登場して大変話題になりましたと紹介しています。安田さんが外国の放送局やNHKなどの取材を受けて、「ユニフォームを着るといよいよという感じとなり、興奮しています。今までのボランティアの経験からすると、200日はアツと言う間に来ってしまうので、もっと準備をします！」と述べています。

皆さんが非常に興味を持てる項目がわかりやすく書かれており、とても読みやすいです。この本は現在非売品で購入できませんが、日産スタジアムホームページでは2016年5月の第1回から2021年8月の第100回コラムまで読むことができます。横浜国際総合競技場(日産スタジアム)ホームページで見つけられない方は事務局員に問い合わせして下さい。(久保勝美)



著書「笑顔のスタジアム」



ホームページの名誉場長コラム

※	INFORMATION	※
---	-------------	---

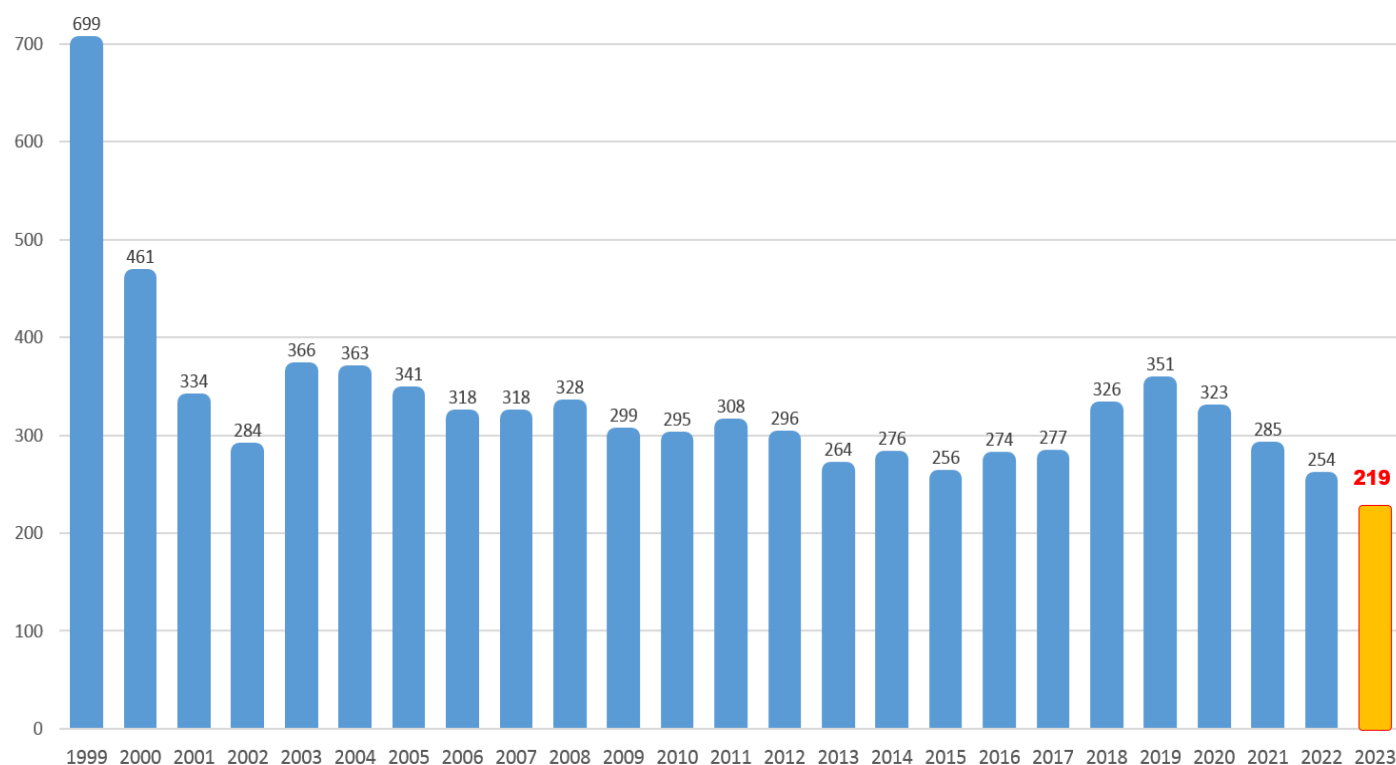
令和5年9月～10月の活動予定

月日	イベント名	集合時間	終了予定	要員
9/19 (火)	ACL 横浜F・マリノス VS 仁川ユナイテッド(韓国)	15:00	21:00	126人
9/29 (金)	Jリーグ 横浜F・マリノス vs ヴィッセル神戸(第29節)	15:00	21:00	126人
10/21 (土)	Jリーグ 横浜F・マリノス vs コンサドーレ札幌(第30節)	10:00	16:00	126人
10/22 (日)	サイクルパークフェスティバルマーシャル講習会	14:00	16:00	40人
10/25 (水)	ACL 横浜F・マリノス VS カヤFC(フィリピン)	15:00	21:00	126人

※イベントの時間や人数の変更、活動の追加や中止の可能性があります。活動参加の連絡が届いた場合は確認してください。

日産スタジアム運営ボランティア登録の推移

日産スタジアム運営ボランティア登録者の人数は2021年が285名で、2022年の254名、2023年の219名と減少傾向が続いて創立以来、最少人数となっています。2020年初めからコロナウイルス感染拡大によりイベントの中止や延期が続き、またコロナウイルス感染の様子を見ながらボランティア登録を見送っている方々もいらっしゃるかと推測しています。コロナ感染が落ち着く傾向が見られ、今年はイベントの回復に伴いボランティアに登録される方々が増えてくることを期待しています。(データ提供:日産スタジアム運営ボランティア事務局)



日産スタジアム運営ボランティア登録人数の推移 (1999年～2023年)

日産スタジアムボランティア会報 『ボランティアわ(カラー版)』のアーカイブ

ボランティアわ第1号から最新号まで日産スタジアムホームページに登録されており見ることができます(一部を除く)。

<表示方法>

スタジアムホームページ > 事業案内 > スタジアムボランティア > ボランティアだより「ボランティアわ」

<またはQRコードで画面を開きます>
ボランティアだより「ボランティアわ」をクリック

スタジアムボランティア



<https://www.nissan-stadium.jp/volunteer/index.php>

写真提供：日産スタジアムスタッフ、久保勝美

✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ 編集後記 ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂

✂ 5月21日(日)、日産スタジアムで行われたセイコーゴールデングランプリ陸上を観戦しました。チケットを買って陸上競技大会を見るのは久しぶりです。日産スタジアムの陸上トラックは公式記録として認定されるために検定を5年に1度受けています。この検定に合わせて、昨年10月末から選手が走る部分のウレタン改修工事が全面的に行われました。2月後半には赤いウレタンが蘇り、真っ白なラインが引かれました。5月21日に世界や日本の一流アスリートがこの全面改修されたトラックの上で熱戦を繰り広げました。男子100メートルでは米国の選手が予選で9.88秒を記録し、他の選手を圧倒しました。男子走り幅跳びでは日本の第一人者が海外の強豪選手を抑えて優勝しました。普段、日産スタジアムではボランティア活動があるので競技を見ることはありませんが、この日は座席で大会をゆっくりと楽しみました。(久保勝美)

発行・編集：日産スタジアム ボランティア事務局 情報部会

〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 日産スタジアム Tel: 045-477-5030 FAX: 045-477-5002